



特集

広域アトランタ大会

「アトランタ総領事に感謝！」

「ジョージア日米協会ご紹介」

「2017年の大会は奈良で開催」

NAJAS 紹介 ピーター・ケリー氏インタビュー
万次郎と「アジア・太平洋系市民の伝統月間」

寄稿／北代 淳二



次の花を咲かせよう。

世界を舞台に多岐にわたる分野で、
様々なビジネスを創造してきました。
それでも、まだまだ成長過程。
人のため、社会のために、
まだ見ぬ花を咲かせていきたい。
私たちはこれからも創造し続けます。

すべては、
ひとつの思いから。

アトランタ総領事に感謝！ 篠塚総領事、地域分科会の15市を訪問中！

今年の日米草の根交流サミット・広域アトランタ大会は、前任の在アトランタ日本国総領事須永和男氏のご協力があったて実現したものです。

それを引き継ぎ、今年1月にアトランタに着任された現在の篠塚 隆 在アトランタ日本国総領事も、着任直後から、今年の日米草の根交流サミット・広域アトランタ大会におおいにご協力くださっています。現地で受け入れを担当していただいているジョージア日米協会へのアドバイスや支援のみならず、地域分科会が開催される都市を訪問し、直接市長などにご協力を要請していただいています。篠塚総領事の訪問に同行された総領事館員によれば、「市長をはじめ、観光協会、助役以下、市幹部、姉妹都市協会、

商工会長等にお会いしましたが、皆さん、とても受け入れを楽しみにしていらっしやいます。イベントや市庁舎での朝食会など、いろいろと考えてくださっており、その懐の深さに感激しています」とのこと。まさにアメリカ南東部のサザン・ホスピタリティが表れていると言って良いでしょう。

10月の開催までには、全15市を訪問されるご予定で、アトランタ総領事館のFacebookには、その訪問の様子なども写真入りで紹介されています。✔

注目!

※Facebookを使っておられる方は、「アトランタ総領事館」で検索してみてください。総領事館のトップページが出たら「このページの投稿を検索」のセルに、「サミット」と入れて検索してください。



ディケーター訪問



ピーチツリーシティ訪問



エルバートン訪問



コロンバス訪問



ゲインズビル訪問



ロスウェル訪問

また、同総領事館には、これまでも「スクールキャラバン」という、広報事業の一環として行っている日本紹介講座がありますが、今年は日米草の根交流サミットに合わせて、特別編を準備していただいています。「スクールキャラバン特別編ジョン万次郎バージョン」として、地域分科会の受け入れを行ってくださる市の小中高校や図書館・公民館などで、日米草の根交流の原点であるジョン万次郎とホイットフィールド船長の友情や、日本とアメリカとのつながりなどを紹介する出前教室を開催予定です。これにより、地域の方々に日本をより良く理解していた

だこうというものです。

加えて、今年の広域アトランタ大会には、福島県から葛尾村と川内村の2つの中学校の生徒達、また教育関係者達が参加する予定ですが、この参加に関するプレスリリースもご準備くださる予定です。

今年の日米草の根交流サミット・広域アトランタ大会に参加される方々は、オープニング式典やクロージング式典で、篠塚総領事や総領事館員の皆様とご挨拶するチャンスもあるかと思います。国際草の根交流センターとしても、総領事と館員の皆様に心から感謝する次第です。

ジョージア日米協会 JASG ご紹介!

今年の「日米草の根交流サミット2016広域アトランタ大会」は、アトランタに事務所を置く「ジョージア日米協会 (JASG)」との共催です。現在、毎年恒例の9月の大規模イベント「ジャパン・フェスト」の準備に忙しい中、10月開催の草の根サミットの準備も並行して行っています。この「草の根通信」の8、9ページには、全米日米協会連合会 (NAJAS) の紹介をしていますが、JASG もこのNAJASの会員組織です。今年のサミット大会でお世話になるJASGについて、ご紹介します。

Atlanta

ジョージア日米協会 (JASG) を発足させる動きは1979年に始まりました。

ビジネスマンや大学関係者が集まり、ジョージア州民に日本社会、文化、政治等の知識を広めること、またジョージア州在住の日本人を歓迎し、ジョージア州の歴史伝統を知ってもらうことを目的とした協会を設立しようとしたのです。というのは、1970年代後半のジョージア州在住の日本人は1000人あまり。進出日本企業は55社ほどにもなっていました。日本経済研究センターの調べによりますと、1975年における北米への日本の投資額は45億ドルでしたが、1979年には85億ドルに達していました。ジョージア州の1970年から後半にかけての伸びは、日本経済の役割と日本人の存在がジョージア州において今後も重要なものであることを物語っていたのです。

JASG を発足させるための計画委員会は、日本について造詣が深く、滞日経験もある人々から構成されました。

JASG を発足させるための計画委員会は、日本について造詣が深く、滞日経験もある人々から構成されました。なかでも、コカ・コーラ社のイアン・ウィルソン氏の参加は、ジョージア州ベースの日本の大手会社の責任者と最適なものでした。1980年に日米協会の発足会がアトランタで開かれ、イアン・ウィルソン氏が会長に、村田エリー北アメリカ社長のフレッド・茶の木氏が副会長、ファースト・ナショナル・銀行のD.レイノルド・リドル氏が会計係、ジョージ・ウォルドナー氏が事務局長に選出されました。また、当時のバズビー州知事と川出総領事が名誉会長に選ばれました。



JASGの事務局を担う方々 (前列右から2番目は事務局長のヨシ・堂本氏)



「友達クラブ」の活動

両国民の接触が深まるにつれ、言語、文化の違いから来る誤解やコミュニケーションの不足が危惧された時でもあり、JASGのミッション（使命）は、この文化的ギャップを補うための各プログラムや行事を提供し、州の成長・発展と共に、ジョージア州在住の日本人の暮らしを援助することとしました。

具体的には、協会の目的は下記の通りに決まりました。

- ・日本の文化、社会、政治の知識をジョージア州民に広める
- ・日米関係の論争・問題点の意識促進
- ・ジョージア州在住の日本人にアメリカの歴史、文化、生活を伝える
- ・ジョージア州民に日本、日本人、及び日本の習慣について伝え、ジョージア州在住の日本人との友好関係を促進する
- ・ジョージア州民と日本人に共通の関心あるトピック、例えば美術、文学、文化についての討議の場を提供する
- ・両国の相互理解に将来貢献する大学レベルの学生に奨学金の援助をする

これらの目的に沿って、JASGは発足からこれまで、ビジネスランチョン・セミナー、レセプション、ゴルフ・トーナメント、年次晩餐会等広範囲に渡って活動して来ました。若い会員を対象としたヤング・プロフェッショナルの集まりでは、ピクニック、ボウリング、スケート、川下り等の催しを楽しみ、また女性の集まりの「友達クラブ」では日米の女性が2ヶ月に一度文化的活動を行っています。教育活動としては、小中高校を訪問し、日本の文化や慣習、生活等を紹介。社会人には初級、中級の日本語のクラスも定期的に関講し、日本語の普及に努めています。福岡市で開催される「アジア太平洋子ども会議」にアメリカの子どもたちを送るプログラムや、日本からの学生の英語研修プログラム、そしてアメリカの高校・大学生のための日本語クイズ大会、スピーチコンテスト等も主催しています。



ヤング・プロフェッショナルのボウリング大会



書道教室

JASGは、支援して下さる企業会員、個人会員、多くのボランティアと職員に支えられ、日本とジョージア州のよりよい理解、伝達、友好関係を促進する努力を続けています。今年の広域アトランタ大会に参加される日本の方々をお迎えするのを、心から楽しみにしています。

Summit Topic!

サミットピック!



ジョージア日米協会は、今年の「第26回 日米草の根交流サミット 2016 広域アトランタ大会」のロゴを作成しました。左側にあしらわれている桃は、ジョージア州がピーチ・ステートと呼ばれていることに由来します。アトランタには南北に走るピーチツリー・ストリートがあり、草の根サミットで宿泊するホテル、ザ・ジョージアン・テラスもこのストリートに面しています。

2017年の草の根サミットは、奈良で開催!

CIE事務局では、今年10月の日米草の根交流サミット・広域アトランタ大会の準備とともに、来年日本で開催される大会準備も進めています。2017年の大会開催地は、日本の古都、奈良に決定しました。現在、奈良県庁の観光プロモーション課の皆さんが、地域分科会の開催地の調整、またホストファミリーの募集など、具体的な準備を進めてくださっています。また、今年4月に新しく発足した奈良日米協会からも、多大なご協力いただいています。

日程も、以下のように決まりました。この6月末から7月初旬にかけては、アメリカのほとんどの学校が夏休みの時期にあたり、ご家族で参加しやすい時期です。

オープニング式典は、世界遺産に登録されている奈良を代表する寺院、東大寺を見学した後、同じ東大寺にある金鐘（きんしょう）会館で開催します。

クロージング式典は、能発祥の地、奈良での開催にふさわしく、奈良春日野国際フォーラム“菟”の能楽堂をお借りします。その後のホストファミリーを交えてのフェアウェル・パーティーは、同じ“菟”の美しい日本庭園で開催予定です。

皆さんのアメリカのお知り合いにも、ぜひ情報をお知らせください。



東大寺・金鐘ホール



“菟”の能楽堂



“菟”の日本庭園



東大寺・大仏

奈良大会スケジュール

2017年6月

26日(月) 米国出発

27日(火) 奈良到着

28日(水) ローカルツアー

オープニング式典 於：東大寺金鐘会館

レセプション 於：奈良ロイヤルホテル

29日(木) 鹿寄せ見学後、地域分科会へ

30日(金) 地域分科会

2017年7月

1日(土) 地域分科会

2日(日) クロージング式典

於：奈良春日野国際フォーラム“菟”能楽堂

フェアウェル・レセプション

於：奈良春日野国際フォーラム“菟”日本庭園

3日(月) 奈良出発



あたたかい空へ。あたらしい空へ。

ANA Inspiration of JAPAN

A STAR ALLIANCE MEMBER 

Kusanone interview



Mr. Peter Kelly

ピーター・ケリー氏

CIEが日米草の根サミットを米国側で開催する際には、全米日米協会連合会 (NAJAS: National Association of Japan America Societies) の年次総会と日程を合わせ、2010年以来、オープニング式典と歓迎レセプションは合同で行ってきました。参加された方々の中で、オープニングでNAJAS総会の参加者とお話をされた方々もおられると思います。このNAJASとはどのような組織なのか、NAJAS理事長のピーター・ケリー氏にお話を伺いました。



ピーター・ケリーNAJAS理事長(右)と
マネージャーの室谷眞規子さん

Q.1 全米日米協会連合会 (NAJAS) とは、どのような組織なのでしょう？

A.1

ご存知の方は少ないのですが、実は全米37ヶ所に「〇〇日米協会」とか「〇〇日本協会」というNPOが存在しています。一番古いのは、1904年に設立されたボストン日本協会、もっとも新しいのは今年できたノース・カロライナ日米協会です。地元の方々が作った、それぞれ独立した組織です。

長い間、あまりそれぞれの間で横の連絡もなく独自に活動してきていたのですが、1978年に、それぞれの団体が自ら独自に日米に関するプログラムを作るよりも、全米レベルで様々なリソースを共有した方がより良いものができるし、効率的であるということで設立されました。NPOとして政府登録をしたのは1979年です。当時は、ニューヨークの日本協会の中に作られた形になっていましたが、5年後には完全独立し、1990年には事務所もニューヨークからワシントンDCに移しました。

Q.2 具体的には、どのような事業をされていますか？

A.2

NAJASには2つの重要な役割があります。

一つ目の役割は、全米37ヶ所にある会員団体に対する支援です。日米関係に関するプログラム、また日本と友好的関係を結ぶにあたって役立つプログラムを、ビジネス、文化、若者交流、また日本広報といった分野でサービス提供をしています。

具体的には、助成金を出す団体から大きめの資金を預かり、会員団体にはプログラムを提案し、希望する会員団体に具体的なプログラムを作ってもらって助成金申請をしてもらうのです。今年は、日本広報については笹川平和財団から、ビジネスについては経団連から、若者交流についてはTOMODACHIイニシアチブから、文化については米日財団から、それぞれ大きな資金を預かり、これを助成金申請してきた会員団体

に配分しています。この他にも、笹川平和財団USAとやっているものとして、JUMPがあります。JUMPは、Japan U.S. Military Program（日米ミリタリー事業）の略です。これは、過去に日本の基地に駐屯していた、あるいは現在も駐屯している米兵や政府関係者、またその家族などに対して、感謝を伝えるとともに、現在の安全保障に関する情報を提供して、関係強化を図っていくものです。このように、NAJASは、全米に散らばる地域の会員団体のニーズにあったテーマ、資金、また講演のスピーカー等を提供できるよう工夫をしています。

二つ目の役割は、年次総会を開催することです。会員団体は、日本に関する事業を行っているとはいえ、必ずしも頻繁に日本を訪問できている訳ではありません。そこで、この年次総会では、最新の日米関係の情報を伝えるようにしています。ここに参加した会員団体が、地元に戻った時に、今度は自らがこうした新しい情報を地元の方々に伝えることができるようにしているのです。ですから、年次総会で基調講演を行ったり、シンポジウムでパネリストとして参加した方々を会員団体が見て、今度は自分達の地域にその方を招致してイベントを開いたりすることがよくあります。スピーカーの方々からも、「アメリカの地方都市では講演する機会があまりなかったので、とても良い機会だった」と喜んでもらっています。

Q.3 A.3

CIEが米国側で草の根サミットを開催する際、サミットのオープニングのイベントにはNAJASの方々も参加していますね。

実は、2010年の年次総会から、日程を草の根サミットのオープニングに合わせて開催するようになりました。NAJASの年次総会は毎年開催していますが、一方で草の根サミットが米国で開催されるのは2年に1回なので、2年に1回の頻度でいっしょにやっていることとなります。これまで2010年のサンフランシスコ・ベイエリア大会、2012年のノース・テキサス大会、2014年のサン・ディエゴ大会で合同のオープニングをしてきました。今年も10月に開催予定の広域アトランタ大会でも、いっしょにオープニングをすることになります。

NAJASは米国の団体ですが、日本にも北海道から熊本まで、各地に30の日米協会があります。これらが連携して全国日米協会連合会（NAAJS）という組織を作っています。名前が似ていてややこしいのですが、NAJASは、このNAAJSといっしょの合同総会を2年に一回、日本と米国で開催しています。ですから、4年に一回はこの日本と米国の日米協会の関係者が米国側に集まって合同総会をするのです。2012年のノース・テキサスでの草の根サミットの時がその時でした。それから4年経って、今年の広域アトランタ大会にも、米国と日本の両方の日米協会関係者がオープニングに集まることとなります。

Q.4 A.4

草の根サミットは、全米の日米協会にとっても意義ある事業と覚えておられるのですね。

そうです。私達のNAJASの事務所の中に、CIEの米国側のカウンターパートであるCIE-USの事務所を置いています。こうした連携ができる前は、CIEは独自に米国で草の根サミットを開催してくれる地域を探さなければなりませんでした。しかし今では、NAJASの会員団体の中で、次の草の根サミットを共催してくれる団体を探すことができるようになりました。ですから、草の根サミットのオープニングに、NAJASの会員団体が参加してくれることは、草の根サミットを知ってもらい良いきっかけを作っていることにもなります。今後も、こうした連携を継続していきたいと考えています。

寄稿

万次郎と「アジア・

太平洋系市民の伝統月間」

ASIAN PACIFIC AMERICAN

HERITAGE MONTH

CIE 評議員

北代 淳二



1900年頃に撮影されたアジア系移民の子ども達の写真

毎年5月はアメリカの「アジア・太平洋系市民の伝統月間」だ。日系や中国系など、アジアと太平洋地域にルーツをもつ市民のアメリカ社会に対する貢献を記念するもので、一ヶ月にわたって全米各地でさまざまな記念行事が行われる。

移民の国アメリカには、このほかにもアフリカ系、中南米系など、先祖の出身地別に多くの「記念月間」がある。

例えばアフリカ系は、毎年2月を「ブラック・ヒストリー月間」としている。奴隷解放宣言をしたリンカーン大統領と解放運動指導者だったフレドリック・ダグラスが同じ2月生まれだったのでこの月が選ばれたという。創設は古く、1926年にさかのぼる。

またヒスパニックとかラティノと呼ばれて社会的影響力が大きくなっている中南米系市民の記念月間は、毎年9月15日から10月15日と、月をまたいだ一ヶ月だ。コスタリカなど中米5カ国の独立記念日が9月15日で、またコロンブスのアメリカ大陸発見が1492年10月15日とされていることからこのような期間が選ばれたものだ。創設は1968年だ。

いずれの「記念月間」も米連邦議会により議決され、大統領が布告するアメリカの国家行事である。

それではアジア・太平洋系市民の歴史貢献を記念する月間は、どのような理由で5月と決まったのだろうか。

結論を先に言えば、これにはジョン万次郎が大きくかか

わっている。

発端は1977年。民主党の日系下院議員ノーマン・ミネタらが、5月の初めの一週間をアジア・太平洋系市民週間と指定する法案を提出した。理由は(1)1843年5月7日に最初の日本人移民がアメリカに来たこと。(2)1869年5月10日に、中国人移民の多大の労働による米大陸横断鉄道が完成したこと。

これに対して上院のダニエル・イノウエやスパーク・マツナガらの有力日系議員らが賛同し、上下両院合同決議で毎年5月4日からの一週間を「アジア・太平洋系市民の伝統週間」とすることが決まった。そして1978年に、当時のカーター大統領が議会の決議に署名し、アジア・太平洋地域系市民の貢献を記念する5月の1週間が、初めて国の公式行事となった。

さらに1990年、ジョージ・ブッシュ大統領の時代に、記念行事の期間が一週間から5月の一ヶ月に延長され、Asian Pacific American Heritage Monthとして現在に至っている。

5月を選ぶ第一の理由としてあげられた1843年5月7日は、日本人移民が初めてアメリカに来た日というだけで、移民の名も到着地名も挙げられていない。しかし史実として明らかなのは、この日は紛れもなく、万次郎が捕鯨船ジョンハウランド号でマサチューセッツ州ニューベッドフォードに到着し、ホイットフィールド船長に連れられてアメリカ合衆国に第一歩を印した日である。

万次郎を移民 (immigrant) と呼ぶことに異を唱えることも出来る。移民を「職を求めて外国に移住する者」という意味に取れば、万次郎の場合には当てはまらない。第一に1843(天保14)年には日本はまだ鎖国中であり、海外への「移民」などは論外の時代なのだ。

「アジア・太平洋系市民の伝統月間」を原語の「Asian Pacific American Heritage Month」でネット検索するとおびただしい数の記事や情報が得られる。

その殆どが発端になった法案の文言を引き写しにしたのか、日本人のアメリカ移民が1843年に始まったとし、一人ではなく複数の移民だったとしているものもある。残念ながら日本についての歴史認識はまだまだ浅いようだ。

しかし万次郎の名前が具体的にあげられていないにしても、1843年5月7日に上陸という万次郎の明らかな足跡にちなんで、アジア・太平洋系アメリカ市民の伝統と歴史貢献を

賞揚する月間が、国によって選ばれた意味は大きい。

今年も5月いっぱいアメリカ各地で、アジア太平洋地域の多様性を受け継ぐ市民たちのさまざまな行事が行われた。今年は大統領選挙で移民の問題が大きな争点になっていることもあり、彼らの多くの関心は現在であり過去ではないかもしれない。だがせめてこの意味深い年中行事の発端に、万次郎という日本の若者がいたことをもっと知ってほしいものである。

※この寄稿は2016年5月23日付けの高知新聞に掲載された記事に一部加筆したものです。



1942年にマンザナール日系人収容所で撮影された写真



「米公式サイト」より
Asian Pacific American Heritage Month ロゴマーク

Asian Pacific American Heritage Month に関する
米国の公式HPは以下からアクセス

<http://asianpacificheritage.gov/about/>

平成 27 年度 寄附協賛企業一覧 (五十音順)

List of Corporate sponsors of CIE Japan FY2015

AISIN

アイシン精機株式会社
AISIN SEIKI Co., Ltd

Aflac

アフラック
Aflac

100年をつくる会社
鹿島

鹿島建設株式会社
Kajima Corporation

kikkoman

キッコーマン株式会社
Kikkoman Corporation

JTEKT

株式会社ジェイテクト
JTEKT CORPORATION

ANA

全日本空輸株式会社
All Nippon Airways Co., Ltd.

DAIKIN

ダイキン工業株式会社
Daikin Industries, Ltd.

日本の台所
庄ヤグループ

株式会社大庄
DAISYO CORPORATION

DENSO

株式会社デンソー
DENSO CORPORATION

豊田合成

豊田合成株式会社
TOYODA GOSEI CO., LTD.

TOYOTA

トヨタ自動車株式会社
TOYOTA MOTOR CORPORATION

豊田自動織機

株式会社豊田自動織機
Toyota Industries Corporation

豊田通商

豊田通商株式会社
Toyota Tsusho Corporation

TOYOTA
FINANCIAL SERVICES

トヨタファイナンシャル
サービス株式会社
TOYOTA FINANCIAL SERVICES
CORPORATION

トヨタ紡織

トヨタ紡織株式会社
TOYOTA BOSHOKU
CORPORATION

NIICO

株式会社ニフコ
Nifco Inc.

NYK LINE

日本郵船株式会社
NIPPON YUSEN KABUSHIKI
KAISHA (NYK LINE)

HINO

日野自動車株式会社
Hino Motors, Ltd.

FUJITSU

富士通株式会社
Fujitsu Limited

brother

ブラザー工業株式会社
BROTHER INDUSTRIES, LTD.

MS&AD 三井住友海上

三井住友海上火災保険株式会社
Mitsui Sumitomo Insurance
Company, Limited

三井住友銀行
SMBC

株式会社三井住友銀行
Sumitomo Mitsui Banking
Corporation

三菱商事

三菱商事株式会社
Mitsubishi Corporation

三菱食品

三菱食品株式会社
Mitsubishi Shokuhin Co.,Ltd

明治安田生命

明治安田生命保険相互会社
Meiji Yasuda Life Insurance Co.

愛知製鋼株式会社 / アサヒグループホールディングス株式会社 / 東京海上日動火災保険株式会社
パナソニック株式会社 / 矢崎総業株式会社

AICHI STEEL CORPORATION / Asahi Group Holdings, Ltd. / Tokio Marine & Nichido Fire Insurance Co., Ltd.
Panasonic Corporation / Yazaki Corporation

平成 27 年度 日米草の根交流
サミット大会への寄付企業一覧 (五十音順)

大分トヨペット株式会社

大分トヨペット株式会社

Canon

キヤノン株式会社

ANA

全日本空輸株式会社

KYUSHU

ダイハツ九州株式会社
ダイハツ九州株式会社

三菱商事

三菱商事株式会社

オムロン太陽株式会社 / 富士通エフサス太陽株式会社
ホンダ太陽株式会社 / 三菱商事太陽株式会社

平成 27 年度 法人賛助会員一覧 (五十音順)
Corporate members

明治安田生命保険相互会社 / 株式会社三菱東京UFJ銀行
Meiji Yasuda Life Insurance Co. / The Bank of Tokyo-Mitsubishi UFJ, Ltd.



公益財団法人ジョン万次郎ホイットフィールド記念
国際草の根交流センター

John Manjiro Whitfield Commemorative
Center for International Exchange

〒102-0083 東京都千代田区麹町 2-12-18 グランアックス麹町 602
TEL : 03-3511-7171 FAX : 03-3511-7175

GRAND AXE 602 2-12-18 Koujimach, Chiyoda-ku, Tokyo 102-0083, Japan
TEL : +81-03-3511-7171 FAX : +81-03-3511-7175

Email : manjiro@manjiro.or.jp URL : http://www.manjiro.or.jp